○帯状疱疹（たいじょうほうしん）とは？

帯状疱疹は、「水ぼうそう」と同じウイルス（水痘・帯状疱疹ウイルス）によって起こる病気です。

子どもの頃に水ぼうそうにかかった人の体には、そのウイルスが神経の中にずっと潜んでいます。年を取ったり、体の抵抗力（免疫）が弱くなると、このウイルスが再び活動を始め、皮膚に痛みをともなう発疹や水ぶくれを引き起こします。これが帯状疱疹です。

○発症率と年齢の関係

日本では、一生のうちにおよそ 3 人に 1 人が帯状疱疹を経験すると言われています。

特に 50 歳以上で発症しやすくなります。
➡ 年齢が上がるにつれ、発症率も高くなります。

年代	年間の発症率（1000 人あたり）
50 代	約 6～7 人
60 代	約 7～8 人
70 代	約 8～10 人

○症状の特徴

・初期症状（前ぶれ）
皮膚に発疹が出る前に、体の片側にピリピリするような痛みやかゆみが出ます。風邪のようなだるさを感じることもあります。

・皮膚症状
数日後、その部分に赤い発疹、水ぶくれが現れ、帯のように広がることが多いです。（体の片側だけに出るのが特徴です）

・回復期
水ぶくれはかさぶたになり、一般的には 2～4 週間ほどで治まります。患者さんによっては、後遺症などもありこれよりかなり長引くことがあります。

○後遺症（帯状疱疹後神経痛）

発疹が治った後も、痛みが何ヶ月も続くことがあります。これを「帯状疱疹後神経痛（PHN）」と言います。
特に高齢の方では起こりやすく、痛みが数ヶ月～1 年以上続くこともあります。
ピリピリ、ズキズキする強い痛みで、日常生活に支障が出ることもあります。

○ワクチンについて（予防のために）

帯状疱疹は、ワクチンで予防できる病気です。現在、2 種類のワクチンがあります。

① 生ワクチン（弱毒生水痘ワクチン「ビケン」など）

接種対象：50 歳以上（定期接種対象は 65 歳の方など、当院 HP 参照）
接種回数：1 回
効果の持続：約 5 年程度
予防効果：約 50～60%
副反応：軽い発熱、注射部位の腫れなど

薬、病気（がん治療中等）などで免疫力が低下している方には使えません

② 不活化ワクチン（シングリックス）
接種対象：50歳以上（定期接種対象は65歳の方など、当院HP参照）
接種回数：2回（2ヶ月間隔）
効果の持続：10年以上とされる
予防効果：90%以上（非常に高い）
副反応：注射部位の痛み、発熱、倦怠感など（生ワクチンより比較的強め）
薬、病気（がん治療中等）などで免疫力が低下している方にも使用可能

○まとめ
帯状疱疹は年齢とともに発症しやすくなる病気です。
後遺症などで痛みが長く続くこともあり、予防がとても大切です。
ワクチン接種により、発症や後遺症を大幅に減らすことができます。
不安なことがあれば、ご相談ください。